道徳科学習指導案

指導者

１　日　時　　令和６年１０月　１６日（水）　５校時

２　学　年　　第３学年（１３名）

３　主題名　　「やっぱり、やめよう」［A 善悪の判断、自律、自由と責任］

４　ねらい

してはならないと思っていても、周りの雰囲気に押されて黙ってしまった「ぼく」の気持ちを考えることを通して、弱い心に負けず、強い力を発揮することが、やってよかったという自信になることに気づき、正しいと判断したことを自信をもって行おうとする心情を育てる。

５　教材名　　「たからさがし」
（「小学どうとく　生きる力３」日本文教出版）

６　主題設定の理由

〇主題観

本主題は、第３学年及び第４学年の内容項目［A 善悪の判断、自律、自由と責任］、「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。」に基づくものである。これは、第５学年及び第６学年の「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。」に繋がっていく。

人はしてはいけないと思いつつも、してしまったり黙ってしまったりと、周囲のことを気にして流されてしまうことがある。節度ある行動をとっていこうとするためには自分の基準に従って行動しようとする強い心情を養っていく必要がある。しかし、人は弱いものであり、時には自分の思うように行動できず、人としてよりよい生活ができないことがある。人としてよりよい生活を送っていくためには、よく考えて行動することが大切であり、他人がどのようにしようとしていても、自分でよいことかどうかしっかりと考え行動しようとする態度を養えるようにと考え、本主題を設定した。

〇児童観

〇指導観

本教材は、「ゲーム会社」の係のみんなで宝物を砂場に埋めに行く場面から始まる。「ぼく」は、片付けが苦手なりょうじの筆箱も一緒に埋めて驚かせようとする友達の行動を「やめたほうがいいんじゃないか。」と一度は制止したが、勢いに飲まれてなにも言えなくなってしまう。しかし、筆箱を埋められたりょうじの顔が思い浮かび、もう一度声をかけて正しいことを伝えることができ、係の仲間のよくないことを止めることができた。正しいと思うことを言うか言わないか迷う気持ちに共感し、正しい判断に従うことが大切だということに気付かせることができる教材である。

指導に当たっては、 児童の生活を振り返りながら主体的に考え、道徳的価値についての考えを深められるようにしたい。そのために、次の４点に留意する。

① 導入では、友達の間違った行動を見かけたときについて自分の生活を振り返ることにより、やめるように言おうか迷う気持ちになることに気づかせ、本時の課題につなげる。

② 展開前段では、「やめたほうがいいんじゃないか」と声をかけた「ぼく」の心情について考え、「ぼく」はいけないことだと判断したということを捉えさせる。また、友達の勢いに負けてしまった「ぼく」の迷いを共感的に捉えさせ、人には迷う心もあることに気づかせる。

③ 中心発問では、友達に「やっぱり、やめよう。」と言ったときの「ぼく」の思いを共感的に捉え、迷っても自分の考えをしっかり持って行動するために必要な考えや態度を考えることができるようにする。

④ 展開後段では、改めて「正しいと思ったことを伝えるために大切なこと」について考えを深め、正しい判断を伝えることができた経験を振り返り、自分の行動のよさに気付くことができるようにする。

７　準備物

・挿絵　・短冊　・ワークシート

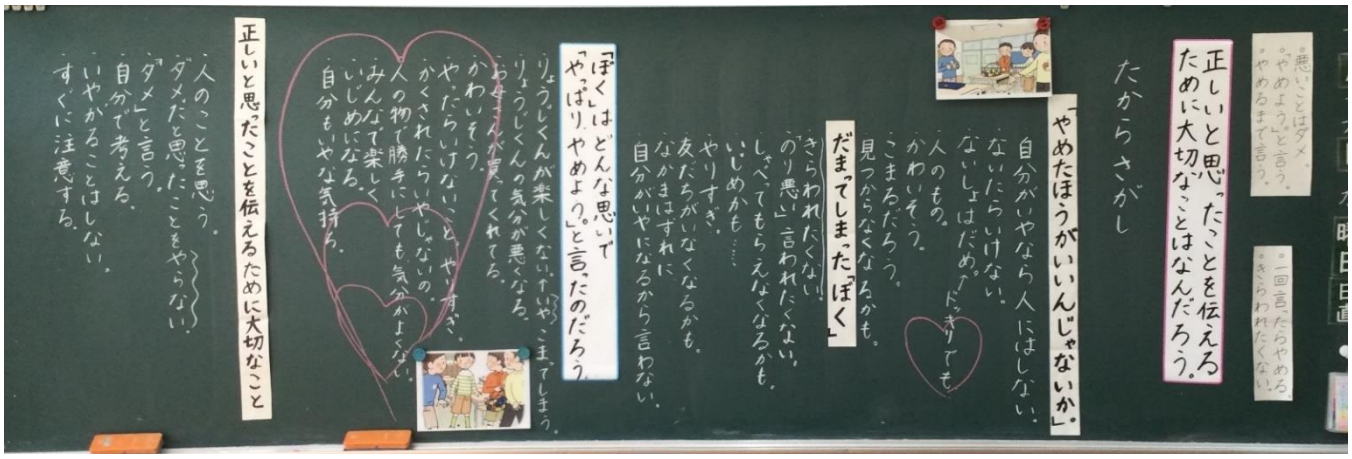
８　学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	○留意点●評価
導入（5分）	１　アンケートの結果を振り返り、課題意識をもつ。	○友達がいけないことをしてるとき、止められますか。 ・悪いことはだめだから、止める。 ・嫌われたくないから、とめられない。	○やめるように言おうか、言わないでおこうか、迷う気持ちになることをつかませ、教材文への方向づけを図る。
		正しいと思ったことを伝えるために大切な考えはなんだろう。	

展開前段（３０分）	２「たからさがし」を読んで考え、話し合う。	○「やめたほうがいいんじゃないか」と言ったとき、ぼくはどんなことを考えたのだろう。 ・やりすぎだ。 ・自分たちは楽しいと思うけれど、りょうじくんは楽しくなくなる。 ・伝えていないのに勝手なことをしてはいけない。 ・りょうじくんが悲しむ。 ・心配。 ・先生に怒られる。 ○それ以上言えなくなった「ぼく」の気持ちをを考えよう。 ・なかま外れになってしまうのではないか。 ・言っても聞いてくれないかもしれない。 ・みんなが言うから… 【中心発問】 ○「ぼく」はどんな思いで「やっぱり、やめよう」と言ったのだろう。 ・もりあがらない。 ・楽しくたからさがしができない。 ・よくないことはよくないと伝える。 ・楽しくてもふざけてはいけない。 ・りょうじくんを悲しませたくない。 【考えを深める発問】 ○思いを伝えても、聞いてくれないかもしれないよ。 ・聞いてくれるまで伝える。 ・一人でも悲しむ人がいるなら楽しくなくなるから、ちゃんと止める。 ・後悔しないように止める。	○「ぼく」がいけないことだと判断したことをはっきり捉えさせる。 ○いけないことだと考えたのに、みんなの勢いに負けそうになる「ぼく」の弱さに共感させ、人には迷う心もあることに気づかせる。 ○いけないと思ったら行動に移すことが、みんなが心地よく生活できることに気付かせる。 ○正しい判断に従う良さにつなげて、意見を肯定していく。

展開後段（5分）	3　自分の生活を振り返る。	○正しいと思ったことを伝えるときに大切な考えは何でしょう。 ・間違っていることはしっかり伝える。 ・勇気を持つ。 ・してはいけないと思うことに自信をもつ。	●正しい判断を伝えることでともだちにも迷惑をかけず、自分も後悔せずにいられることに気付いている。 （道徳ノート・発言） 【キーワード】 ・ダメなことはダメ ・弱い心に負けない ・自分自身に勝つ
終末（5分）	4　学習の振り返りをする。	○弱い心に負けず、自分が正しいと判断したことを実行できた経験を振り返りましょう。	○自分の行動のよいところを振り返り、やってよかったという自信になることに気づかせる。

9　板書



10　成果と課題　（成果…○　　課題…●）

○主人公の心の迷いに共感しながらも、してはいけないことをダメだと伝えようとする考えや態度について考えることができていた。

○児童が自分の経験を振り返って、意見を発言することができていた。

●ハートで主人公の意志の高まりを可視化しようとしたが、ハートの意味を共有できていなかった。

●児童が自分の考えを伝えることはできたが、自分の意見を発言して終わりとなっていた。

11　今後に向けて

・ハートの意味を全体で共有したり、大きさや形についての発言を取り上げたりして、児童同士が考えを交流できるようにしていく。

・授業の時間配分に気をつける。